

## 今日のみことば

### □ 3月11日(日) サムエル記上 6章

ペリシテ人は神の箱をもとあったところに返すことにした。ベテ・シメシュの人は喜んだが、そこにも災いが臨んだのでキリアテ・ヤリムに移され、そこに安置所を得ました。

### □ 3月12日(月) サムエル記上 7章

サムエルはイスラエルの人々に悔い改めを迫り彼らはそれを受け入れた。ペリシテ人が攻めてきたとき、サムエルは軍事的指導者ではなかったが、全能の神に訴え、勝利を受けた。

### □ 3月13日(火) サムエル記上 8章

サムエルの息子たちはサムエルの道を歩まず、民はサムエルに王を求めた。彼は人々に王を持つことの損失を説いたが、彼らを思いとどまらせることは出来なかった。

### □ 3月14日(水) サムエル記上 9章

神がここに王として選ばれたのはサウルでした。彼は迷子のろがを探しにして、神のお計らいの下でサムエルと出会った。サムエルはサウルに油を注いで王とした。

### □ 3月15日(木) サムエル記上 10章

サムエルはサウルを王としたが、彼らをエジプトから導き出しカナンに入れられた目に見えない指導者でいます神に、直接頼るべきであることを思い起こさせた。

### □ 3月16日(金) サムエル記上 11章

神はサウルを動かし、民に訴えさせ、民をそれにこたえさせた。イスラエルの民が一つになったのはこの時が初めてであった。新しい王の治世のために、よい出発となった。

### □ 3月17日(土) サムエル記上 12章

今やサウルは全イスラエルから王として認められた。サムエルは引退した。サムエルは民が王を求めた思いを受け止め、負うべきお方は神であることを伝えるために心を尽くした。

---

ろ ぼ No. 1858  
2018年 3月11日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

マルコ 14:29、31

するとペトロが、「たとえみんながつまずいても、わたしはつまずきません」と言った。

ペトロは力を込めて言い張った。「たとえ御一緒に死なねばならなくなってもあなたのことを知らないなどとは決して申しません。」皆の者も同じように言った

イエスの十字架の周りにいた人たち。弟子たちはどうしていましたか。すぐに思い出されるのがペトロの「たとえ一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決してもうしません」と言った言葉でしょう。その彼がイエスの仲間だと言われて、「知らない」と三度否定した出来事でしょう。ユダもそうでしたが、寝食を共にしてきたイエスがある程度理解していた弟子たちです。その師を裏切る、否定すると言うことは、理解できない出来事の一つです。彼らがどのようにしてイエスの弟子となったか、その状況を思い浮かべるとき、何があったかを思い巡らされることでした。本当に何があったかを思い描かれますか。

ペトロはイエスが捕らえられたとき、剣を持って抵抗をしました。ほかの弟子たちは、捕らえられ引き立てられていくイエスを「弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった」(マルコ 14:50)のでした。一人の弟子は、体を張ってイエス捕縛を阻止しようとしたが、自分の身の危険を察すると、いのちからがら逃げてゆきました。ペトロは捕らえられたイエスの後について行き、大祭司の庭まで入り込みました。イエスはそのようなペトロをご存じでした。イエスは人の弱さをご存じでした。私はその光景に、最初の人々が神の約束を破って、神に隠れたあの出来事を思い浮かべました(創世記3:8-11)。

イエスが最後の食卓を囲んで祈られ、ご自分の死を告知されました(マルコ14:22-26)。弟子たちがどのようにイエスの言葉を受け止めたかは分かりませんが、オリーブ山に行かれ、そこで弟子たちに「あなたがたは皆わたしにつまずく。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊は散ってしまう』／と書いてあるからだ。」と言われました。預言の言葉を聞きながら私は、いつもしっかりと心得させていだかねばならない大切なことに気づかせられるのでした。イエスはしっかりと御心を生きておいでになったと言うことです。ペトロはイエスの言葉に反発して、「死なねばなくなっても、あなたを知らないなどとは決してもうしません」と言いました。前に一度ペトロがイエスを離れるようなことがあると話されたときも、同じような言葉でそれを否定しました(ルカ22:31-34)が、ペトロの断固として否定するこの言葉の内に怒りさえ覚えさせられるものを聞くのです。しかしそのことが現実の出来事となった時のペトロの思いを察することが出来るでしょう。「イエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣き出した」(マルコ14:72)とあります。

どこまで行っても私たちは弱い人間です。そのことをしっかりと、受け止めることが私たちのなすべきことなのです。このような窮地に私たちがおかれて、私たちはどれほどの違いを見ることが出来るのでしょうか。イエスはそれでも彼らをしっかりと顧みていて下さいました。「しかし、わたしは復活した後、あなたたちより先にガリラヤへ行く。」と言われました。まさしくイエスの御心を従われる姿をしっかりといさせていただくのです。ペトロもまた主の慈しみの中に置かれました。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
マルコ 14:43-52 愛していながらも

裏切り者のユダの先導によって、主イエスを捕らえようとする一隊がやって来ました。無抵抗の主を自ら守ろうとしてペトロの行動は、まだ主が何のために死のうとしておられるのかをいまだ理解しませんでした。

51節に書かれた青年は、自分のいのちの危険を察すると、いのちから逃げたゆきましました。ペトロはいくぶん冷静でした。イエスのことが心配で、祭司の庭にまで入って様子を見ていました。成り行きを見てみようと思っていたにすぎません。

弟子たちは危険が迫ると逃げてしまいました。これまでどうもイエスが語ってこられたことを、何も理解していない愚か者でした。しかし私たちは、これらの弟子たちとどれほどの違いがあると言えるのでしょうか。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

マルコ15:1-15 ピラト・イエスを引き渡す